

# 平成24年3月期 決算説明資料

平成24年6月20日



エムケー精工株式会社

**JASDAQ**

証券コード: 5906

# 平成24年3月期の決算概要

## 平成24年3月期の総括

### ■ 業績の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災の影響による経済活動の停滞から復興が進み、多少明るい兆しが見えてまいりましたが、欧州の財政・金融不安による世界経済の減速懸念の高まりや円高水準の長期化に加え、タイの水害が発生し、先行きの不透明感は払拭されないまま推移いたしました。

当社グループ関連業界におきましては、東日本大震災で停滞しておりました設備投資に徐々に動きが見られ、受注は一部回復傾向にありました。また、個人消費も持ち直しつつありますが、デフレの影響や雇用情勢の改善の兆しも見えず、競合他社との価格競争激化もありまして、経営環境は引き続き予断を許さない状況にあります。

かかる状況のもと、当社グループにおきましては、利益確保の企業体質の構築を最優先課題に、引き続き経営全般にわたる徹底した合理化および効率化を事業本部制導入により推進し、業績の向上に努めてまいりました。

その結果、当連結会計年度の売上高は188億2千4百万円(前期比12.3%増)、営業利益は7億7千2百万円(前期は4億8千8百万円の営業損失)、経常利益は6億9千万円(前期は5億5千9百万円の経常損失)、当期純利益は5億5千4百万円(前期は7億2千1百万円の当期純損失)となりました。

## 平成24年3月期の業績

### <連結業績>

単位:百万円

	24年3月期	23年3月期	対前期比
売上高	18,824	16,761	112.3 %
営業利益又は営業損失(△)	772	△488	—
経常利益又は経常損失(△)	690	△559	—
当期純利益又は当期純損失(△)	554	△721	—

### <単体業績>

単位:百万円

	24年3月期	23年3月期	対前期比
売上高	16,845	14,911	113.0%
営業利益又は営業損失(△)	658	△570	—
経常利益又は経常損失(△)	636	△545	—
当期純利益又は当期純損失(△)	540	△691	—

## 平成24年3月期 連結貸借対照表

単位:千円

	24年3月期	23年3月期	増減額
(資産の部)			
流動資産	10,657,555	10,478,950	178,605
現金及び預金	1,431,977	1,344,780	87,196
受取手形及び売掛金	4,462,698	4,106,235	356,463
たな卸資産	4,480,539	4,777,720	△297,181
その他の流動資産	282,340	250,213	32,127
固定資産	9,557,726	10,231,691	△673,965
有形固定資産	6,375,824	6,745,170	△369,345
無形固定資産	1,684,984	1,818,559	△133,575
投資その他の資産	1,496,917	1,667,961	△171,044
繰延資産	1,937	-	1,937
資産合計	20,217,219	20,710,641	△493,422

## 平成24年3月期 連結貸借対照表

単位:千円

	24年3月期	23年3月期	増減額
<b>(負債の部)</b>			
<b>流動負債</b>	<b>9,607,894</b>	<b>11,540,732</b>	<b>△ 1,932,837</b>
支払手形及び買掛金	1,191,633	1,278,116	△ 86,482
短期借入金	5,569,810	7,656,572	△ 2,086,762
その他の流動負債	2,846,450	2,606,043	240,407
<b>固定負債</b>	<b>3,386,303</b>	<b>2,642,460</b>	<b>743,842</b>
社債	100,000	—	100,000
長期借入金	2,833,384	2,144,477	688,907
その他の固定負債	452,919	497,983	△45,064
<b>負債合計</b>	<b>12,994,198</b>	<b>14,183,192</b>	<b>△1,188,994</b>

## 平成24年3月期 連結貸借対照表

単位：千円

	24年3月期	23年3月期	増減額
(純資産の部)			
株主資本	7,708,466	7,154,435	554,030
資本金	3,373,552	3,373,552	-
資本剰余金	2,951,143	2,951,143	-
利益剰余金	1,893,892	1,339,861	554,030
自己株式	△510,121	△510,121	-
その他の包括利益累計額	△485,444	△626,986	141,541
その他有価証券評価差額金	△96,533	△271,694	175,161
繰延ヘッジ損益	8,788	△2,245	11,033
為替換算調整勘定	△397,699	△353,046	△44,653
純資産合計	7,223,021	6,527,448	695,572
負債純資産合計	20,217,219	20,710,641	△493,422



## 平成24年3月期 連結損益計算書

単位:千円

	24年3月期	23年3月期	増減額
売上高	18,824,252	16,761,971	2,062,280
売上原価	13,240,101	12,234,235	1,005,866
<b>売上総利益</b>	<b>5,584,150</b>	<b>4,527,736</b>	<b>1,056,414</b>
販売費及び一般管理費	4,811,555	5,016,711	△205,155
<b>営業利益又は営業損失(△)</b>	<b>772,595</b>	<b>△488,974</b>	<b>1,261,569</b>
営業外収益	111,495	142,795	△31,299
営業外費用	193,231	213,026	△19,795
<b>経常利益又は経常損失(△)</b>	<b>690,859</b>	<b>△559,206</b>	<b>1,250,065</b>
特別利益	10,228	25,130	△14,902
特別損失	133,921	109,748	24,173
<b>税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)</b>	<b>567,166</b>	<b>△643,823</b>	<b>1,210,990</b>
法人税等及び法人税等調整額	13,135	77,688	△64,553
<b>当期純利益又は当期純損失(△)</b>	<b>554,030</b>	<b>△721,512</b>	<b>1,275,543</b>





## 平成24年3月期 連結株主資本等変動計算書

単位:千円

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成23年3月20日残高	3,373,552	2,951,143	1,339,861	△510,121	7,154,435
当連結会計年度中の変動額					
当期純利益			554,030		554,030
株主資本以外の項目の当連結 会計年度中の変動額(純額)					
当連結会計年度中の変動額 合計	-	-	554,030	-	554,030
平成24年3月20日残高	3,373,552	2,951,143	1,893,892	△510,121	7,708,466

## 平成24年3月期 連結株主資本等変動計算書

単位:千円

	その他の包括利益累計額				純資産 合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	その他の 包括利益 累計額 合計	
平成23年3月20日残高	△271,694	△2,245	△353,046	△626,986	6,527,448
当連結会計年度中の変動額					
当期純利益					554,030
株主資本以外の項目の当連結 会計年度中の変動額(純額)	175,161	11,033	△44,653	141,541	141,541
当連結会計年度中の変動額 合計	175,161	11,033	△44,653	141,541	695,572
平成24年3月20日残高	△96,533	8,788	△397,699	△485,444	7,223,021



## 平成23年3月期 連結株主資本等変動計算書

単位:千円

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成22年3月20日残高	3,373,552	2,951,143	2,133,884	△510,057	7,948,523
当連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当			△72,511		△72,511
当期純損失			△721,512		△721,512
自己株式の取得				△64	△64
株主資本以外の項目の当連結 会計年度中の変動額(純額)					
当連結会計年度中の変動額 合計	-	-	△794,023	△64	△794,087
平成23年3月20日残高	3,373,552	2,951,143	1,339,861	△510,121	7,154,435



## 平成23年3月期 連結株主資本等変動計算書

単位:千円

	評価・換算差額等				純資産 合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等 合計	
平成22年3月20日残高	△162,594	508	△238,954	△401,040	7,547,482
当連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当					△72,511
当期純損失					△721,512
自己株式の取得					△64
株主資本以外の項目の当連結 会計年度中の変動額(純額)	△109,099	△2,753	△114,091	△225,945	△225,945
当連結会計年度中の変動額 合計	△109,099	△2,753	△114,091	△225,945	△1,020,033
平成23年3月20日残高	△271,694	△2,245	△353,046	△626,986	6,527,448

## 平成24年3月期 連結キャッシュ・フロー計算書

単位:千円

	24年3月期	23年3月期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,399,688	511,921	887,766
投資活動によるキャッシュ・フロー	145,125	△212,178	357,303
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,456,990	△333,599	△1,123,390
現金及び現金同等物に係る換算差額	△628	△3,274	2,646
現金及び現金同等物の増加額 (△減少額)	87,195	△37,131	124,326
現金及び現金同等物の期首残高	286,483	323,614	△37,131
現金及び現金同等物の期末残高	373,678	286,483	87,195

## 平成24年3月期 貸借対照表

単位:千円

	24年3月期	23年3月期	増減額
(資産の部)			
<b>流動資産</b>	<b>10,606,089</b>	<b>10,295,414</b>	<b>310,674</b>
現金及び預金	1,156,497	1,203,397	△46,900
受取手形及び売掛金	3,928,874	3,182,474	746,399
たな卸資産	3,773,770	4,121,628	△347,857
その他の流動資産	1,746,946	1,787,914	△40,967
<b>固定資産</b>	<b>9,335,931</b>	<b>9,807,018</b>	<b>△471,086</b>
有形固定資産	4,967,681	5,214,295	△246,614
無形固定資産	415,024	426,951	△11,927
投資その他の資産	3,953,226	4,165,771	△212,545
<b>資産合計</b>	<b>19,942,020</b>	<b>20,102,433</b>	<b>△160,412</b>

## 平成24年3月期 貸借対照表

単位：千円

	24年3月期	23年3月期	増減額
(負債の部)			
<b>流動負債</b>	<b>9,476,676</b>	<b>11,025,472</b>	<b>△1,548,795</b>
支払手形及び買掛金	1,162,932	972,460	190,471
短期借入金	5,408,878	7,483,756	△2,074,878
その他の流動負債	2,904,866	2,569,255	335,610
<b>固定負債</b>	<b>3,094,567</b>	<b>2,433,059</b>	<b>661,508</b>
長期借入金	2,684,729	1,962,391	722,338
その他の固定負債	409,838	470,668	△60,829
<b>負債合計</b>	<b>12,571,243</b>	<b>13,458,531</b>	<b>△887,287</b>

## 平成24年3月期 貸借対照表

単位:千円

	24年3月期	23年3月期	増減額
(純資産の部)			
株主資本	7,454,412	6,913,726	540,686
資本金	3,373,552	3,373,552	-
資本剰余金	2,951,143	2,951,143	-
利益剰余金	1,639,838	1,099,152	540,686
自己株式	△510,121	△510,121	-
評価・換算差額等	△83,635	△269,824	186,189
その他有価証券評価差額金	△92,423	△267,579	175,155
繰延ヘッジ損益	8,788	△2,245	11,033
純資産合計	7,370,776	6,643,901	726,875
負債純資産合計	19,942,020	20,102,433	△160,412





## 平成24年3月期 損益計算書

単位:千円

	24年3月期	23年3月期	増減額
売上高	16,845,280	14,911,502	1,933,778
売上原価	11,837,067	10,978,828	858,238
売上総利益	5,008,213	3,932,673	1,075,540
販売費及び一般管理費	4,349,407	4,502,695	△153,287
営業利益又は営業損失(△)	658,805	△570,022	1,228,828
営業外収益	156,563	222,875	△66,312
営業外費用	178,856	198,162	△19,306
経常利益又は経常損失(△)	636,513	△545,309	1,181,822
特別利益	8,623	16,366	△7,742
特別損失	121,894	108,128	13,766
税引前当期純利益又は 税引前当期純損失(△)	523,241	△637,071	1,160,313
法人税等及び法人税等調整額	△17,444	54,695	△72,140
当期純利益又は当期純損失(△)	540,686	△691,767	1,232,453



## 平成24年3月期 株主資本等変動計算書

単位:千円

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成23年3月20日残高	3,373,552	2,951,143	1,099,152	△510,121	6,913,726
当事業年度中の変動額					
当期純利益			540,686		540,686
株主資本以外の項目の 当事業年度中の変動額(純額)					
当事業年度中の変動額合計	—	—	540,686	—	540,686
平成24年3月20日残高	3,373,552	2,951,143	1,639,838	△510,121	7,454,412



## 平成24年3月期 株主資本等変動計算書

単位:千円

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算 差額等合計	
平成23年3月20日残高	△267,579	△2,245	△269,824	6,643,901
当事業年度中の変動額				
当期純利益				540,686
株主資本以外の項目の 当事業年度中の変動額(純額)	175,155	11,033	186,189	186,189
当事業年度中の変動額合計	175,155	11,033	186,189	726,875
平成24年3月20日残高	△92,423	8,788	△83,635	7,370,776



## 平成23年3月期 株主資本等変動計算書

単位:千円

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成22年3月20日残高	3,373,552	2,951,143	1,863,430	△510,057	7,678,069
当事業年度中の変動額					
剰余金の配当			△72,511		△72,511
当期純損失			△691,767		△691,767
自己株式の取得				△64	△64
株主資本以外の項目の 当事業年度中の変動額(純額)					
当事業年度中の変動額合計	—	—	△759,428	△64	△764,342
平成23年3月20日残高	3,373,552	2,951,143	1,099,152	△510,121	6,913,726



## 平成23年3月期 株主資本等変動計算書

単位:千円

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算 差額等合計	
平成22年3月20日残高	△158,660	508	△158,151	7,519,917
当事業年度中の変動額				
剰余金の配当				△72,511
当期純損失				△691,767
自己株式の取得				△64
株主資本以外の項目の 当事業年度中の変動額(純額)	△108,918	△2,753	△111,672	△111,672
当事業年度中の変動額合計	△108,918	△2,753	△111,672	△876,015
平成23年3月20日残高	△267,579	△2,245	△269,824	6,643,901

## セグメント別分析

### ■ オート機器事業

主要製品の門型洗車機は主力取引先であるSS業界におきまして機器の買い替えが堅調に推移し、またカーディーラー・整備工場ルートに対する販売も堅調に推移いたしました。オイル機器におきましても収益向上のツールとして販売が伸長したことに加え、顧客ニーズに沿った提案型営業の推進が奏功いたしました。

この結果、オート機器事業全体の売上高は、98億9百万円(前期比20.6%増)となりました。

### ■ 情報機器事業

主要分野であるアミューズメント業界におきまして、業界の淘汰・再編の流れは依然として変わらない中、東日本大震災による消費自粛や節電意識の高まりによる影響を受け、民需小型定番およびフルカラー表示機は苦戦いたしました。一方、道路情報板関連は、昨年度受注した官需案件の売上が寄与し、この結果、情報機器事業全体の売上高は、28億4千3百万円(前期比14.4%増)となりました。



門型洗車機「G-FOUR ジーフォー」



道路用表示システム

## セグメント別分析

### 生活機器事業

東日本大震災による影響を一部地域で受けたものの、保冷米びつや米保管庫は堅調に推移いたしました。しかし、パン焼き機などの調理家電におきましては海外商品との価格競争、また農産物低温貯蔵庫は競合他社との価格競争があり苦戦いたしました。

この結果、生活機器事業全体の売上高は、45億2千9百万円(前期比2.0%減)となりました。

### 住設機器事業

主に子会社の株式会社ニューストが行う事業で、木・アルミ複合サッシおよび反射板式消音装置の製造・施工が主な事業であります。主要取引先である建設業界は、公共投資の減少や低価格競争の慢性化などにより依然として低調なまま推移しております。同社への影響も例外ではなく厳しい状況にありますが、第2四半期以降での引き合いが増加し、当期売上に寄与できましたことから、住設機器事業全体の売上高は、14億8千6百万円(前期比9.5%増)となりました。



農産物低温貯蔵庫



木・アルミ複合サッシ  
「アルタスウッドスクリーン」の施工例

## セグメント別分析

### ■ その他の事業

その他の事業は、長野市内で展開しております「長野リンデンプラザホテル」の運営事業および保険代理業、不動産管理・賃貸業であります。ホテル業は、業界全体の競争激化に加え、長引く景気低迷による影響を大きく受け、依然として厳しい経営環境となっております。

この結果、その他の事業全体の売上高は、1億5千5百万円(前期比5.2%減)となりました。



長野リンデンプラザホテル



## 平成25年3月期 業績・配当予想

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、今後様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## 平成25年3月期の業績予想

### <連結業績>

単位：百万円

	25年3月期(予想)	24年3月期(実績)	対前期比
売上高	19,500	18,824	103.6%
営業利益	800	772	103.5%
経常利益	730	690	105.7%
当期純利益	600	554	108.3%

## 平成25年3月期の配当予想

当社グループは、株主各位への利益還元を重要な政策と位置づけ、今後の事業展開を念頭に財務体質の強化のための内部留保とのバランスを考慮した利益配分を基本方針としております。

平成25年3月期における1株当たりの年間配当予想は以下のとおりです。

### <1株当たり年間配当金>

	1株当たり期末配当金
平成25年3月期(予想)	8円00銭
平成24年3月期(実績)	5円00銭

# 參考資料

## 当社の経営方針

### ■ 今後の経営方針

当社グループは、企業理念「求・消・営」のもと、お客様(消費者)をすべての中心に据え、お客様に求められる製品を販売及び営業することに努めてまいりました。また、開発から製造・販売までの一貫体制による「自社考案・自社販売」を基本方針として、研究開発型企業を志向しております。

なお、当社グループを取り巻く環境は益々変化しており、様々な分野において顧客ニーズやビジネスモデルが多様化しております。こうした変化や多様化に敏感かつ柔軟に適応すべく、モノづくりとサービス提供との高度な融合にチャレンジし続けてまいります。

## 中長期的な経営戦略

### ■ 中長期的な経営戦略

今後の経済見通しは、緩やかな回復傾向を辿ると期待されるものの、国内では原発問題に伴う電力不足が懸念され、海外では欧州債務危機や中東情勢等の問題が燻っており、不透明な状況が続くものと予想されます。

当社グループは、こうした経済情勢に過度に左右されることなく、増収増益を達成できる強靱な企業体質を目指して、以下の課題に取り組んでまいります。

#### ①お客様の視点に立った発想

当社グループは、常に顧客視点に立ち、環境変化を的確かつ柔軟に捉えるとともに、お客様の課題・ニーズをくみ上げ、既成概念にとらわれないイノベーションを追求し、お客様の期待を超える新しい喜びを生み出す企業を目指します。

#### ②コア技術力の深耕と他分野への応用

当社グループは、長年培ってきたメカトロを中心としたコア技術に磨きをかけるとともに、他分野への応用にチャレンジし、蓄積された技術資源と異分野あるいは外部資源との戦略的な融合を図ります。

#### ③モノづくりとサービスを支える人財育成

当社グループは、お客様の視点に立ったモノ及びサービスを複合的・複層的に提供し、また更なるグローバル化の進展に対応するため、すべての社員がプロフェッショナルとなるよう人材育成に努めます。

## 中長期的な経営戦略

### ④信頼の確保

当社グループは、お客様の高い信頼を得るため、優れた提案力、製品力、安心かつ高品質なモノ及びサービスを提供し続けるべく、そのための仕組みづくりを強化します。

### ⑤質実の追求

当社グループ社員は、何よりも顧客価値の提供を優先するものとして、飾り気なくかつ誠実に日々の業務に精励します。

## 研究開発活動

原材料費の値上がりや円高基調が続く中、市場はデフレ傾向が継続しており、また、2011年3月に発生した震災による消費動向への影響など当社を取り巻く環境は厳しい状態が続きました。このような社会状況の中で、市場の変化、技術の変化を感度良く取り入れ、環境問題に配慮した研究開発の実践が求められています。当期も引き続き「フュージョン・テクノロジーで未来へ」を合い言葉に、「メカトロニクス技術」と「情報通信・処理技術」をコアテクノロジーとした高付加価値商品の研究開発を基本方針として、研究開発活動を次のとおり進めてまいりました。

### ■ オート機器事業

門型洗車機では、前期に開発したセルフタイプのドライブスルー式高機能機をベースに機種追加を行い、幅広いニーズへの対応を図りました。また、消費電力と使用水量を削減した新たな予備洗浄システムを開発しました。省力化と環境負荷低減に配慮した商品開発を進めておりますが、更に既存の洗浄技術を応用して車両以外を対象とした洗浄機の開発を進めております。

自動車整備機器では、低温下でも交換作業ができるエアコンガスクリーニング充填機のシリーズ化をはじめ、作業環境と製品の効率化を求める市場のニーズに対応しました。



## 研究開発活動

### ■ 情報機器事業

今期も前期に引き続き公官需向け製品開発に注力し、高速道路及び一般道の道路管理者向け道路情報板システムと機器の開発を行いました。更に、交通規制用途の情報板システムと機器の開発を行いこれらの設置実績ができるなど、様々な案件への対応が可能となりました。また、高速道路駐車場誘導表示システム、道路冠水情報板等の開発を行いました。

民需向け表示機では、多階調技術を取り入れたコストパフォーマンスの高い2色表示機を開発しました。また、工事関連、道路維持管理向け表示機では、CO2削減と省エネに寄与する太陽電池を電源としたLED表示機や灯器を中心に開発を行い、市場導入を進めております。

### ■ 生活機器事業

農産物低温貯蔵庫シリーズでは、冷却装置の効率向上及び一部樹脂化による軽量化を図った小型機を開発しました。また、多様化するニーズに応えるため、軒下設置ができる小型機と大型低温貯蔵庫用の庫内棚を市場導入しました。

調理家電では、100%米粉を材料としてパンが焼け、フレッシュバターの作成コースも備えた1.5斤タイプのホームベーカリーを開発し、市場導入しました。キッチン収納関連では、電子レンジ置き台全機種においてモデルチェンジを行いました。

## 研究開発活動

### ■ 住設機器事業

主力商品である木・アルミ複合断熱サッシでは、スリム化に徹した「ワイドネスウィンドウ」の開発が終わり、販売開始の見通しとなりました。

また、木・アルミ複合スクリーンにおいては、中層階まで使用可能な高水密のカーテンウォールタイプの開発に着手しました。

また、反射板式消音装置につきましては、引き続きコストダウンを推進中です。

## 新製品情報

### ■ オート機器

#### 【門型洗車機「VIRTH ヴァース」】

車形認識、洗浄、乾燥のすべてを革新的に進化させ、ドライブスルー洗車の価値を高めました。特に乾燥機能は業界初のキャノンブローを搭載し5方向ブローで水滴が残りやすい凹凸部に威力を発揮し、拭き上げの手間がなく洗車エリアの回転率もアップします。また、隙のないブラシ動作により水や電気の使用量も大幅に抑えられエコ性能も格段に向上しました。



### ■ 情報機器

#### 【交通情報板】

各都道府県が発注するフルカラータイプの交通情報板を開発し元請企業と協力して設置いたしました。交通情報板には複数機種がありますが、他の機種も開発を済ませており、要請に応じて即座に対応できる体制を整えております。



### ■ 生活機器

#### 【自動ホームベーカリー「ふっくらパン屋さん」】

材料を入れてメニューを選択するだけの簡単な操作で、ご家庭で手軽に焼きたてパンが楽しめる1.5斤タイプの自動ホームベーカリー。残りご飯を加えたもちもちの「ごはんのパン」や口当たりなめらかな「フレッシュバター」も作ることができ、手作りのバリエーションをお楽しみいただける機種となっております。



## 株主優待制度のご案内

### ■ 株主優待制度の内容

当社のグループ会社で運営する長野リンデンプラザホテル(長野市南千歳町)の宿泊優待券(5,800円相当)を贈呈いたします。

### ■ 発行基準

宿泊優待券は、毎年3月20日現在、所有株式数1,000株以上の株主様に対し、次のとおり発行いたします。

ご所有株数	ご優待券
1,000株 ~ 1,999株	2枚
2,000株 ~ 3,999株	3枚
4,000株 ~ 9,999株	4枚
10,000株以上	6枚

### ■ 発行日

定時株主総会后、決議通知に同封いたします。

### ■ 有効期限

発行年の翌年6月30日まで。



長野リンデンプラザホテル



本資料に関するお問い合わせ

エムケー精工株式会社  
経理本部 IR担当 竹内

TEL:026-272-2819

E-mail:takeuchi\_k@hq.mkseiko.co.jp